

# 稲・大豆作情報 (NO.1)

## 1. 水稻作況情報田の生育概況(8月13日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/16 17.6株/m <sup>2</sup>	本 年	91.9	299	13.2	32.4	7月の曇天とガス害による生育の遅れが回復できていない。
		平 年	93.2	380	13.2	37.8	
		平年比	(99)	(79)	(+0)		
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 17.7株/m <sup>2</sup>	本 年	80.8	359	12.6	33.1	夢しずく： 今週末頃出穂見込み。
		平 年	82.2	480	13.9	36.1	
		平年比	(98)	(75)	(-1.3)		
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/28 20.1株/m <sup>2</sup>	本 年	61.1	709	12.9	37.2	さがびより： 幼穂長2mm。 8/17頃穂肥適期。
		平 年	69.8	623	13.7	40.4	
		平年比	(88)	(114)	(-0.8)		

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稻。

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

## 2. 水稻管理

### ○今週の水管理

- ・穂ばらみ期から出穂期頃は稲の要水量が最も多くなるため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。
- ・中干しが強すぎる圃場が見受けられる。軽く足跡がつく程度とし、黒乾状態を保つ。また、強い中干しの後、入水し湛水すると下葉枯が助長されるため、走り水を1~2回行いその後湛水する。

### ○病虫害の発生状況

- ・**いもち病**は、局所的な発生が見られている。進展型病斑が出ている場合は早急に防除を行う。
- ・**ウンカ類の発生**は、現在のところ平年よりも多い傾向にある。次回の防除時期は、**8月23日頃**（トビイロウンカ各世代の発生予測（第4版 2019/7/24 作成）より）が有効となっている。発生状況によるが、まだ防除を行っていない圃場は防除を予定する。また、この時期には稲体が大きくなっており、株元まで薬剤が飛散しにくいいため、防除後もトビイロウンカの発生量には十分注意し、発生量が多い場合は防除を行う。
- ・**斑点米カメムシ類**は、出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、**出穂10日前までに草刈りを済ませ**、時期を逸した場合には除草しない。発生が懸念される山麓部や河川敷付近等、例年発生の多い圃場では防除を徹底する。

草刈りの時期（目安）	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより・・・8/20頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
ヒヨクモチ・・・・・・8/25頃まで	◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

## 3. 大豆管理

7月上旬播種のもの6~8葉期、中旬播種のもの4~6葉期ごろ、7月下旬播種で本葉2~3葉程度が展開している状況となっている。7月上中旬播種の圃場は2回目の培土を行う。下旬播種でまだ培土がされていない圃場は速やかに作業を行う。

### ○病虫害

- ・ハスモンヨトウについては、平年よりもやや多い予報が出ている。今後は、各地区に設置されているフェロモントラップ誘殺数や、圃場の白変葉の発生状況に留意し、防除時期を検討する。また、昨年発生したオオタバコガ、シロイチモジヨトウが発生する可能性もあるので圃場巡回も励行する。

○雑草防除

・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。カヤツリグサ科が多い場合は、大豆バサグラン等で防除する。ただし、7月上旬に播種された大豆は、まもなく開花期を迎えるため、大豆バサグランの茎葉散布は控える。

畝間散布の場合は、収穫45日前まで散布可能

令和元年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

